

「コムギなまぐさ黒穂病を防ぐために」のパンフレット発行にあたって—

このパンフレットは、関係機関・団体等と作成したものです。

お問い合わせは、「小麦なまぐさ黒穂病に関する連絡会議事務局」

（北海道農政部生産振興局 農産振興課 畑作グループ主幹

TEL：011-204-5434）をお願いいたします。

コムギなまぐさ黒穂病を防ぐために

コムギなまぐさ黒穂病を防ぐために

～まん延防止に向けた対策～



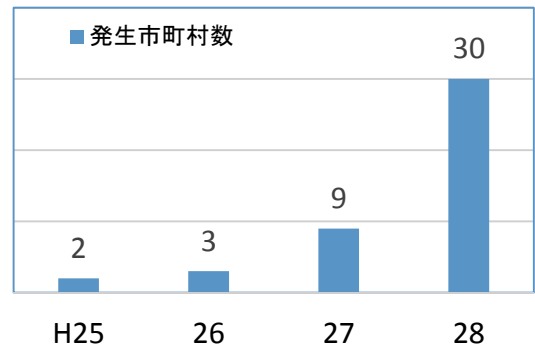
平成28年8月

増えるなまぐさ黒穂病の被害

なまぐさ黒穂病は、5振興局管内で発生が確認されています。発生地域は拡大傾向にあり、今後の発生動向に注意が必要です。

発病穂は黒く異臭がします。穂の中には本病の厚膜胞子が充満しているため、収穫作業により健全な子実にも胞子が付着して異臭麦となり、品質を著しく低下させます。

伝染経路は、種子伝染と土壌伝染とがあり、汚染種子や汚染土壌の移動によって拡大するといわれています。



なまぐさ黒穂病発生確認市町村数

(道農政部調べ 平成28年7月28日現在)

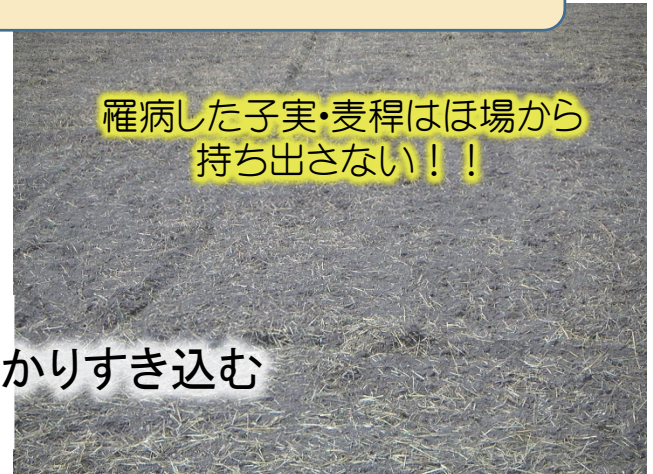
発生ほ場の対応は、廃耕が基本

廃耕に当たっては、麦稈が水分のある場合は、茎葉をストローチョッパーやディスクモア等で細断し、30cm以上の反転耕起を行う。乾燥した状態の場合は、胞子の飛散を避けるため、ディスクモア、ローラなどにより小麦を倒し、プラウですき込む。ほ場周辺部だけに発生が見られる場合は、発生箇所のみを刈り払い機等で倒し、発生の見られない中心部分はストローチョッパーによる細断も可能です。

周辺に胞子を飛散させない、被害を拡散させないという観点から、麦稈は、持ち出さずにすき込むことが重要です。



深く反転、しっかりすき込む



罹病した子実・麦稈はほ場から持ち出さない！！



洗浄を忘れない



野良ばえをさせない

なぜそこまで厳格な処理が必要か？

1. 流通できなくなるから

なまぐさ黒穂病に罹病した子実が混入し異臭麦となった場合、民間流通麦としての取扱いは出来ません。また、流通先において異臭麦による品質低下や産地評価を落とすことは避けなければなりません。

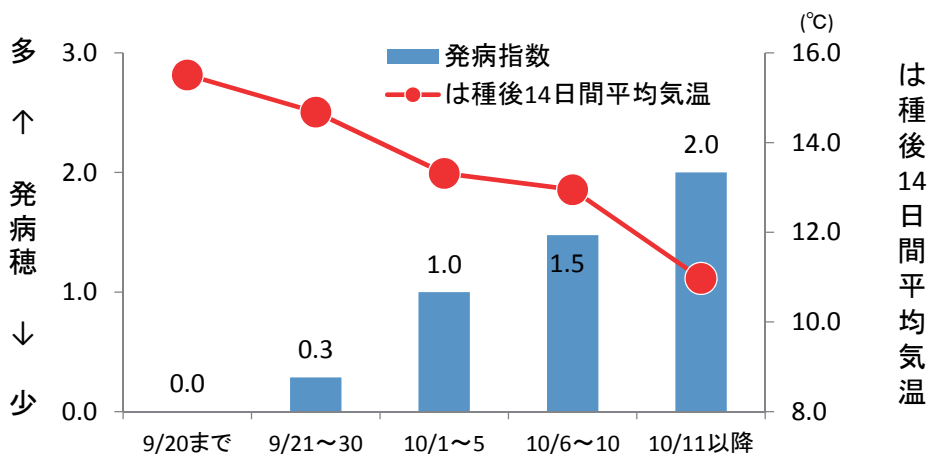
2. 健全な子実麦の汚染、病害が拡散するから

- (1) 罹病した小麦を収穫するとコンバイン・調製施設が汚染されます。また、健全な小麦に混入すると健全な小麦もクレーム品となる可能性があります。
- (2) 拡散・感染力が高いことから、胞子が付着した子実や麦稈が発生ほ場から他のほ場へ拡散すると本病は拡大していく可能性があります。

新たな発生を防ぐ対策は？

適期は種が大事！

本病は、は種時の土壤水分が高く、地温5～15℃以下の比較的低い条件で感染しやすい。このため、遅まきするほど発生する危険性が高くなるので、地域ごとのは種適期を守ることが重要です。排水対策の実施や土壌pHの改良を行うとともに深まきを避け、出芽を停滞させないようにする



は種後14日間平均気温

は種日が遅いほど発病指数は高い傾向にある。遅いは種は、気温も低くなり、感染しやすい。

→罹病のリスクが高まります

は種日ごとのは種後平均気温と平均発病指数(H21~23年産、n=66)

※ 発病指数(程度)の区分(発病穂数):

0...無 1...1~10本/m² 2...11~20本/m² 3...21本/m²以上

【胆振地域農業技術支援会議プロジェクト活動調査結果より 実施期間:平成21~23年度】

種子消毒は確実に

使用する種子は健全なものを使用し、種子消毒には、有効な薬剤を選択する

なまぐさ黒穂病登録薬剤

薬剤名	希釈倍数使用量	使用方法
ベンレートT水和剤20	200倍	6~24時間種子浸漬
	20倍	10~20分間種子浸漬
	7.5倍(乾燥種籾1kg当り希釈液30mL)	種子吹き付け処理
	乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣
ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣
ベフラン液剤25	1,000~2,000倍	10~30分間種子浸漬

種子消毒は種子伝染を抑える効果がある



は種精度をあげること

深度が深くなると感染リスク大に！



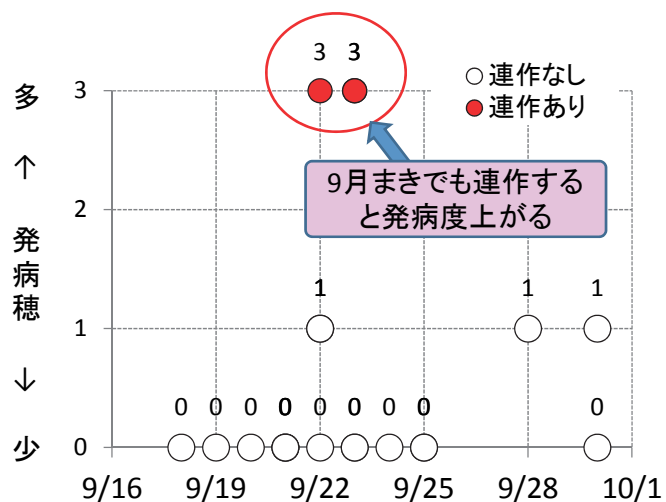
水はけは良好に

水たまりは生育停滞、病気も拡散

適正輪作の実施



小麦の連作を避け、3年以上の輪作を行う。
作付け間隔が短い場合は緑肥も検討する。



9月まきでも連作すると発病度上がる

「9月は種」ほ場の発病度(H21~23年産、n=17)

※ただし、緑肥を栽培する際は小麦の野良ばえに注意する。 【胆振地域農業技術支援会議プロジェクト活動調査結果より】

今できることを

病害の発生を完全に防ぐ防除方法は確立されていませんが、これまでの試験研究や地域の関係者が取り組んできた成果を生かし、想定される発生要因をできるだけ取り除くことにより、収穫される小麦の品質を確保することが何より重要です。また、将来に向けて小麦の作付けができなくならないよう、地域をあげてまん延防止の取組みを進めることが重要です。

■■■ は種に向けたチェックリスト ■■■

- ☑ 連作は避ける
- ☑ 排水対策は万全に
- ☑ 種子消毒は確実に
- ☑ 遅まきはしない
- ☑ は種深度は深くしない